

「復活(4)」

ルカ 24 : 13~35

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ① 週の初めの日(日曜日)に、イエスは復活された。
- ② 聖書は、復活のイエスの出現を10回記録している。
 - * 復活の当日(日曜日)に5回
 - * それ以降の40日間に5回

(2) 復活のイエスの顕現

- ① マグダラのマリアに(マコ 16 : 9~11)
- ② 女たちに(マタ 28 : 8~10)
- ③ エマオ途上の2人の弟子たちに(ルカ 24 : 13~32)
- ④ ペテロに(ルカ 24 : 34)
- ⑤ トマスを除いた使徒たちに(ヨハ 20 : 19~25)
- ⑥ トマスを含めた使徒たちに(ヨハ 20 : 26~31)
- ⑦ ガリラヤ湖畔で7人の弟子たちに(ヨハ 21 章)
- ⑧ 500人以上の信者たちに(1コリ 15 : 7)
- ⑨ ヤコブに(1コリ 15 : 7)
- ⑩ オリーブ山で使徒たちに(使 1 : 3~12)

(3) 今回は、3回目と4回目の現れを見てみる。

(4) A. T. ロバートソンの調和表

§ 176 エマオ途上のふたりの弟子たちへの現れ

ルカ 24 : 13~32

§ 177 ペテロへの現れ

ルカ 24 : 33~35、1コリ 15 : 5

2. アウトライン

- (1) 起(エマオへの道中)
- (2) 承(見知らぬ人との会話)
- (3) 転(聖書の解き明かし)
- (4) 結(霊的開眼)

3. 結論:

- (1) ペテロへの現れ
- (2) クレオパへの現れ

イエスの復活が弟子たちに与えた影響について考えてみる。

I. 起 (エマオへの道中)

1. 13～14 節

Luk 24:13 ちょうどこの日、ふたりの弟子が、エルサレムから十一キロメートル余り離れたエマオという村に行く途中であった。

Luk 24:14 そして、ふたりでこのいっさいの出来事について話し合っていた。

- (1) 「ちょうどこの日、ふたりの弟子が」
 - ①日曜日の午後である。
 - ②登場人物は、ふたりの弟子である。
 - ③恐らく、70人の弟子たちの中のふたりであろう。
 - ④イエスは彼らを宣教のために派遣した。
 - ⑤ひとりにはクレオパで、もうひとりは無名の弟子であった。

- (2) 「エマオという村に行く途中であった」
 - ①エマオは、エルサレムの北西60スタディオン(11キロメートル)にある村。
 - ②なぜエルサレムを去るのか理由は書かれていないが、想像はできる。
 - *悲しみ、驚き、失望
 - *自分を取り戻すために生活の場に戻る必要があったのであろう。

- (3) 「ふたりでこのいっさいの出来事について話し合っていた」
 - ①イエスの死、埋葬、そして復活したという知らせがその内容である。
 - ②動詞は、未完了形である。継続した動作。

2. 15～16 節

Luk 24:15 話し合ったり、論じ合ったりしているうちに、イエスご自身が近づいて、彼らとともに道を歩いておられた。

Luk 24:16 しかしふたりの目はさえぎられていて、イエスだとはわからなかった。

- (1) 「イエスご自身が近づいて、彼らとともに道を歩いておられた」
 - ①イエスが彼らとともに道を歩かれた。動詞は、未完了形である。
 - ②旅の途中で知らない人が会話に加わることは、ユダヤ人には普通のこと。

- ③過越の祭りを祝った巡礼者が帰路につく場合は、特にそう言える。
- (2)「ふたりの目はさえぎられていて、イエスだとはわからなかった」
 - ①なぜイエスだとわからなかったのか。
 - ②思い込みが激しかった、悲しみに沈んでいた、復活の体を認識できなかった。
 - ③神が霊的目を閉ざしておられた。

II. 承(見知らぬ人との会話)

1. 17~18節

Luk 24:17 イエスは彼らに言われた。「歩きながらふたりで話し合っているその話は、何のことですか。」すると、ふたりは暗い顔つきになって、立ち止まった。

Luk 24:18 クレオパというほうが答えて言った。「エルサレムにしながら、近ごろそこで起こった事を、あなただけが知らなかったのですか。」

- (1)「歩きながらふたりで話し合っているその話は、何のことですか」
 - ①イエスは、知らないから質問しているわけではない。
 - ②彼らの信仰を喚起するための会話を始めているのである。
- (2)「すると、ふたりは暗い顔つきになって、立ち止まった」
 - ①驚きの反応。立ち止まった。
 - ②悲しみの反応。暗い顔つきになった。
- (3)クレオパの言葉
 - ①エルサレムにいたなら、誰でも知っている話を、あなただけが知らないのか。
 - ②イエスの活動と死は、エルサレム中に知れ渡っている。
 - *過越の祭りの最中に十字架刑が執行された。
 - ③ルカは、イエスを拒否したユダヤ人の責任を問うている。

2. 19~21節 a

Luk 24:19 イエスが、「どんな事ですか」と聞かれると、ふたりは答えた。「ナザレ人イエスのことです。この方は、神とすべての民の前で、行いにもことばにも力のある預言者でした。

Luk 24:20 それなのに、私たちの祭司長や指導者たちは、この方を引き渡して、死刑に定め、十字架につけたのです。

Luk 24:21 しかし私たちは、この方こそイスラエルを贖ってくださるはずだ、と望みをかけていました。

- (1) イエスの質問に対して、ふたりの弟子たちが答えた。
- ①自分たちが信じていたことと、実際の出来事が合致しないので、当惑している。
 - ②彼らの言葉は、信者の一般的な思いを代表している。

(2) 彼らが信じていた4つのこと

- ①イエスは神の預言者であった。
- ②イエスが預言者であることは、その教えと行いによって証明された。
- ③イエスは裁判にかけられ、死刑に定められ、十字架につけられた。
- ④イエスはイスラエルを贖ってくださるはずだ(メシア)と望みをかけていた。

(3) イエスがメシアであり、神の国をもたらすお方であるという期待が広まっていた。

①ルカ2:30 (シメオンの言葉)

Luk 2:30 私の目があなたの御救いを見たからです。

②ルカ2:38 (アンナの言葉)

Luk 2:38 ちょうどこのとき、彼女もそこにおいて、神に感謝をささげ、そして、エルサレムの贖いを待ち望んでいるすべての人々に、この幼子のことを語った。

3. 21b~24節

事実、そればかりでなく、その事があってから三日目になりますが、

Luk 24:22 また仲間の女たちが私たちに驚かせました。その女たちは朝早く墓に行ってみましたが、

Luk 24:23 イエスのからだが見当たらないので、戻って来ました。そして御使いたちの幻を見たが、御使いたちがイエスは生きておられると告げた、と言うのです。

Luk 24:24 それで、仲間の何人かが墓に行ってみたのですが、はたして女たちの言ったとおりで、イエスさまは見当たらなかった、というのです。」

(1) 次に彼らは、イエスが復活したという知らせについても話した。

- ①これは、第1の現れと第2の現れのことである。
- ②彼らは、イエスが復活したということを、まだ信じていない。

(2) 「三日目になる」

- ①イエスの十字架刑が金曜日に行われたことを証明している。

(3) イエスは、彼らが心の中にあることをすべて吐き出すまで黙って聞いている。

- ①試練の中にいる人の話を聞く際に、大いに参考になる。

Ⅲ. 転(聖書の解き明かし)

1. 25～27節

Luk 24:25 するとイエスは言われた。「ああ、愚かな人たち。預言者たちの言ったすべてを信じない、心の鈍い人たち。

Luk 24:26 キリストは、必ず、そのような苦しみを受けて、それから、彼の栄光に入るはずではなかったのですか。」

Luk 24:27 それから、イエスは、モーセおよびすべての預言者から始めて、聖書全体の中で、ご自分について書いてある事がらを彼らに説き明かされた。

(1) イエスは、彼らを優しく戒めた。

①預言者たちは、メシアの受難と復活を預言していた。

(2) 「モーセおよびすべての預言者」

①モーセとは「モーセの五書」のこと。本来は1冊の書である。

②預言者(複数形)とは、預言書のこと。

③これ全体で、旧約聖書を指す。

④旧約聖書はメシアを指し示している。

*申 18 : 15～18

*詩 22 篇

*イザ 9 : 1～21、11 : 1～16、53 : 1～12

⑤これは、イエスによるバイブルスタディである。

⑥それを聞きたいと思うが、私たちには旧新約聖書と聖霊の助けがある。

(3) 旧約聖書の重要性

①初代教会の時代、伝道は旧約聖書を用いて行われた。

②新約教会は、新約聖書が書かれる前に活動を開始していた。

③ユダヤ人伝道は、旧約聖書を用いて行われる。

2. 28～29節

Luk 24:28 彼らは目的の村に近づいたが、イエスはまだ先へ行きそうな様子であった。

Luk 24:29 それで、彼らが、「いっしょにお泊まりください。そろそろ夕刻になりますし、日もおおかた傾きましたから」と言って無理に願ったので、イエスは彼らと一しょに泊まるために中に入られた。

(1) エマオに近づいたが、イエスはまだ先に行きそうな様子であった。

①イエスは、招かれない限り無理に家に入ることはない。

②家を心と置き換えても同じことが言える。

(2) 彼らはイエスを強いて引き止めた(無理に願った)。

①そろそろ夕刻になる。旅は危険である。

②空腹になって来た。

③食事と宿が用意されている。

④イエスは、彼らの招きに応じて家に入った。

IV. 結(霊的開眼)

1. 30~31節

Luk 24:30 彼らとともに食卓に着かれると、イエスはパンを取って祝福し、裂いて彼らに渡された。

Luk 24:31 それで、彼らの目が開かれ、イエスだとわかった。するとイエスは、彼らには見えなくなった。

(1) イエスは、主人の役割を果たしておられる。

①パンを取って神の御名を祝福した。

②裂いて彼らに渡した。

(2) 彼らの目が開かれて、イエスだとわかった。

①パンを裂くしぐさ

*5000人のパンの奇跡

*最後の晩餐

②イエスの手首に釘の後を見たのであろう。

③その瞬間、イエスは見えなくなった。

④イエスの体が、新しい次元の体であることを示している。

⑤聖餐式の席には、イエスがともにいてくださる。

2. 32節

Luk 24:32 そこでふたりは話し合った。「道々お話しになっている間も、聖書を説明して下さった間も、私たちの心はうちに燃えていたではないか。」

(1) 「心はうちに燃えていた」

①教師はイエスご自身であった。

②内容は、聖書のそのものであった。

(2) 私たちの心が燃えるための秘訣がここにある。

①心が燃えるとは、話し手に同意し、感動している状態である。

3. 33～35節

Luk 24:33 **すぐさまふたりは立って、エルサレムに戻ってみると、十一使徒とその仲間が集まって、**

Luk 24:34 **「ほんとうに主はよみがえって、シモンにお姿を現された」と言っていた。**

Luk 24:35 **彼らも、道であったいろいろなことや、パンを裂かれたときにイエスだとわかった次第を話した。**

(1) 彼らはすぐにエルサレムに戻った。

①「十一使徒」とは、使徒集団を表す言葉である。トマスはいなかった。

②彼らは、復活のイエスがシモン(ペテロ)に現れたという知らせを聞いた。

③今度は、彼ら自身が、自分たちの体験に基づいてイエスの復活を証言した。

(2) 1コリ 15:5

1Co 15:5 **また、ケパに現れ、それから十二弟子に現れたことです。**

①12弟子の中で最初に復活のイエスを見たのは、ペテロである。

(3) マコ 16:13

Mar 16:13 **そこでこのふたりも、残りの人たちのところへ行ってこれを知らせたが、彼らはふたりの話も信じなかった。**

結論：イエスの憐れみ

1. ペテロへの現れ

(1) 使徒集団で、最初に復活のイエスを見たのはペテロであった。

(2) ペテロは、赦しと励ましを必要としていた。

(3) ペテロが初代教会のリーダーとなることを使徒集団が認識する必要があった。

2. クレオパへの現れ

(1) クレオパの名が上がっているのは、初代教会で有名な指導者となったから。

(2) クレオパは、後にエルサレム教会の指導者となった。

①イエスの弟のヤコブが死んでから。

(3) 紀元66年

①将軍ティトウスは、エルサレムの包囲を解いてローマに帰還し、皇帝となった。

- ②その時、メシアニック・ジューたちはイエスの預言に従ってエルサレムから逃れた。
- ③紀元70年にエルサレムが陥落した時、メシアニック・ジューで死んだ人はひとりも出なかった。
- ④この時、メシアニック・ジューたちを導いたのはクレオパであった。